

ACANTHUS NEWS



平成15年 2003.12

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第85号

優れた法曹の養成に期待 北陸で唯一の法科大学院が誕生

TOP NEWS

本学が設置を申請していた法科大学院（法務研究科）は、11月21日、文部科学省大学設置・学校法人審議会の答申で設置が認められ、同日午後、内定の連絡があった。

吉報を受けて会見に臨んだ林勇二郎学長は、「設置は入口であり、これからが大変である。優れた法曹の養成を目指して決意を新たに取り組む。」と口元を引き締めた。また、石川県、金沢市をはじめとする北陸三県の自治体、法曹界等の関係者や金沢大学法曹会から寄せられた惜しみない支援に謝意を表明し、併せて引き続き協力を要請した。

会見には多くの報道機関が取材に駆けつけ、本学の法科大



喜びの中、新たな決意を述べる林学長
＝事務局第2会議室

学院に向けられた熱い期待と社会的関心の高さが示された。

【法科大学院（法務研究科）の概要は6、7頁で特集】



会見後も記者の質問に答える中島史雄法学部長（左）と榎見由美子法科大学院設置準備室長（右）



巻頭言

基礎研究と応用研究



がん研究所長
山本 健 一

日本では今、世をあげて産学連携が叫ばれている。大学の法人化に向けて、産学連携による外部資金の獲得が重要だ、また欧米に比べベンチャーの育成が遅れていて、そのために大学がビジネスの種となる応用技術を産業界に提供すべく積極的な役割を果たすべきだ、等の主張である。私はもちろん、これからの日本におけるこういった大学の役割は重要であると考えているが、最近の産学連携の議論は性急さが目立ち、表面的で、基礎研究を疎んじる傾向があるのを危惧する。

今まで大学人がいわば象牙の塔に閉じこもり、いろんな意味で甘えがあり、外の社会とのコミュニケーションに無関心だった、との批判は心して受け止める必要があるが、その反動で、すぐには社会に役に立たない研究を軽視するという風潮が蔓延するのを恐れる。真に重要な応用研究は、初めは常識から批判されるような萌芽的研究から育つも

のであり、特に高度な研究機関としての大学は、この種の人材を育成する義務がある。しかしそのためには、ある程度の期間、成果が認められない状態でも研究を続ける（雇用する）必要がある。

このことを考えていて、最近全塩基配列が決定されたヒトゲノムのことを思った。ヒト全ゲノムは 3×10^9 個の塩基配列から構成されているが、少なくとも現在のところ機能しているのは全ゲノムのうちのほんの一部であり、大部分は機能していない擬遺伝子、あるいは意味をなさないジャンク配列であるという。この対極にあるのが下等な細菌やウイルスで、無駄なゲノム情報は全くないし、それどころか一つの塩基配列を複数のゲノム情報として使っている。しかし、こういったヒトの無駄な塩基配列は、新たなゲノム情報の基として、これまでのあるいはこれからの長い人類の進化に重要な役割を果たしている可能性がある。

現在、人件費を含む基盤経費予算の削減も議論されており、大学が、長い将来では有用であるが、現在は有用性が見えない、ある意味で無駄な研究を許す余裕がだんだんなくなっていくことを憂慮する。法人の長である学長には、こういった意見にも耳を傾けて頂き、これからの金沢大学が真に社会的な責務を果たすべく、バランスのとれたリーダーシップを発揮して頂きたい。

目次

優れた法曹の養成に期待		北國文化賞	9
北陸で唯一の法科大学院が誕生	1	金沢市文化賞	9
基礎研究と応用研究	2	医学教育等関係業務功労者表彰	9
経済学部「実践的地域経済学講座」が開講	3	大学等環境安全協議会技術賞	9
総合メディア基盤センター設置記念式典	3	金沢大学留学生懇談会を開催	9
がん研究所とブルガリアの		金沢大学国際交流後援会との連絡会議	9
バルナ医科大学が部局間協定	3	タイ友好親善団が来学	10
分子標的薬剤開発センター公開シンポジウム	4	外国人留学生	
東アジア薬学国際シンポジウム	4	伝統文化に触れる	10
21世紀COEプログラム推進シンポジウム	4	防火を学ぶ	10
バイオサイエンスシンポジウム	4	ミニ講演「いのちの教育」	11
デジタル時代の課題を考える		附属小6年3組 ドミノ倒し大会で全国優勝	11
ー附属図書館シンポー	5	附属学校園教育研究発表会	
オーストラリア ニューイングランド大学		ー小学校、中学校、幼稚園でー	11
管理運営責任者が講演	5	福村さんオーストラリア派遣選手に	11
高等RI取扱研修会	5	がん研究所でも防火訓練	11
医学部学生らが「医学フェスティバル」		公開講座	11
ー香林坊ハーバー	5	角間キャンパスでカヤネズミ発見	12
金沢大学の法科大学院（法務研究科）	6	市民の院内見学ツアー	12
第40回金大祭「白いキャンパスに」	8	平成15年度金沢大学永年勤続者表彰式	12
理学部「ふれてサイエンス」	8	編集後記	12
秋の叙勲（本学関係分）	9		

トピックス

経済学部「実践的地域経済学講座」が開講

経済学部地域経済情報センターは、11月10日から23日まで、地域連携事業の一環として企画した地域経済塾「実践的地域経済学講座」を開講した。募集定員30名を超える34名が受講する盛況で、県内の企業経営者や首都圏からの転勤課長職など、多種多様な業種のビジネスマンが、真剣な眼差しで講義に聴き入った。



「日本近代史と金沢・石川・北陸地域」について講義する第1講担当の橋本哲哉教授と受講生=11月10日、石川厚生年金会館



式典であいさつする長野勇センター長
=総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

総合メディア基盤センター
設置記念式典

11月28日、この4月に総合情報処理センターを改組した総合メディア基盤センターの設置記念式典が挙行された。改組により従来のネットワーク管理業務を引き継ぐ情報基盤部門に加え、メディアを活用した教材の開発・支援を担当する情報教育部門、学内の学術情報のデータベース化を推進する学術情報部門が新たに設置された。

式典では、文部科学省、石川県、金沢市等の関係者らが祝辞を述べ、地域に開かれ、世界に情報発信する金沢大学の拠点となるべく期待の聲が寄せられた。式典後、特許庁審判部の吉國信雄審判長による記念講演会と記念祝賀会が行われた。

がん研究所とブルガリアのバルナ医科大学が部局間協定

がん研究所は、外国人客員教授として招聘^{へい}したブルガリアのバルナ医科大学チャルダコフ博士の仲介で、11月7日、がん研究所とバルナ医科大学との部局間交流協定を締結した。バルナ医科大学は黒海に面したバルナ市にあり、高い教育・研究水準を誇るブルガリア屈指の医科大学として知られている。

協定書を交す山本健一がん研究所長(左)とチャルダコフ博士(右)
=がん研究所長室



シンポジウム等

分子標的薬剤開発センター 公開シンポジウム



大阪大学北村教授による講演＝医学部記念館

11月7日、がん研究所附属分子標的薬剤開発センター主催の第3回公開シンポジウムが開催され、80名を超える研究者及び学生が参加した。シンポジウムでは、同センター教員と共同研究者が最近1年間の研究報告を、九州大学吉村昭彦教授と大阪大学北村幸彦教授が特別講演を行い、分子標的薬剤開発の現状と展望について活発な議論が交わされた。

東アジア薬学国際 シンポジウム



シンポジウムの出席者ら＝金沢市内のホテル

11月22日、「東アジア薬学国際シンポジウム・金沢2003」が開催され、薬学部と部局間交流協定を結んでいる釜山大学、ソウル大学、北京大学及び大連軽工業学院から14名の研究者が出席し、約100名の参加者を前に、日頃の研究成果を発表し意見交換を行った。

21世紀COEプログラム 推進シンポジウム



金沢市内のホテルで開かれたシンポジウム

11月23日、薬学部附属薬用植物園の主催により「金沢大学21世紀COEプログラム推進シンポジウムー環日本海域の植物資源の現状と保全ー」が開催された。シンポジウムには、釜山大学、北京大学、東京大学、東北大学、九州大学など国内外の研究者10名がそれぞれ研究発表を行い、会場に詰めかけた約100名の参加者は熱心に聞き入った。

バイオサイエンス シンポジウム

11月28日、自然計測応用研究センター、工学部、理学部、学際科学実験センター、共同研究センターの共催で、バイオサイエンス研究の交流と企業への情報提供を目指すシンポジウムが開催され、学内外から70名を越える参加者があった。



「バイオマグネティックス」に関して講演する東京大学上野照剛教授＝工学部秀峯会館中会議室



講演者らによるパネル討論＝大学会館大集会室

デジタル時代の課題を考える －附属図書館シンポ－

11月10日、「デジタル時代における学術雑誌の新たな進展と課題」と題する附属図書館シンポジウムが開催され、教職員、学生、近隣の図書館関係者及び一般市民ら75名が参加した。

オーストラリアニューイングランド大学 管理運営責任者が講演

ニューイングランド大学（オーストラリア）の実質的な運営責任者で、計画・事業研究部のジョン・クリーマン博士が11月11日来学し、同大学の特徴でもある遠隔教育及び教育研究支援体制に関する講演と、法人化で先行する大学運営について本学副学長らと懇談した。



「大学改革－遠隔地教育と留学－」と題した講演＝文・法・経済学部A202講義室

高等RI取扱研修会

11月14日、アイソトープ関連研究の活性化と地域産業へのシーズの提供に資することを目的に、今年で4回目となる高等RI取扱研修会が開催され、教職員及び学生約20名が受講した。



「PET用脳機能診断薬の開発」と題する石渡喜一氏（勸東京都老人総合研究所ボジロン医学研究施設副参事研究員）の講演に耳を傾ける受講者＝学際科学実験センターアイソトープ総合研究施設



ぬいぐるみを使って「診察ごっこ」

医学部学生らが 「医学フェスティバル」 －香林坊ハーバー－

医学部を中心とした学生ボランティア団体「KURE（キュア）」は11月9日、市民に健康意識を高めてもらおうと、香林坊ハーバーで「医学フェスティバル」を開いた。同フェスティバルでは、子どもたちを対象に「診察ごっこ」など多彩な催しがくり広げられた。

特集

金沢大学の法科大学院（法務研究科）

来年4月に開校する法科大学院の設置認可書交付式が11月27日、東京都内で行われ、本学から出席した林学長は、合田隆史高等教育企画課長から設置を認める通知書を受け取った。この日設置が認められた法科大学院は、国立19校、公立2校、私立45校の計66校で、入学総定員は5,430名。



以下、本学が開校する法科大学院（法務研究科）の概要を紹介する。

基本理念

金沢大学の法科大学院（法務研究科）は、「地域に根ざした法曹教育」を行うことを基本理念とし、法そのものの知識の習得のみならず、個人や社会に対する深い洞察力を持ち、公平で妥当な解決を生み出す人材の育成を目指す。

教育目的

上記の基本理念を達成するため、法務研究科は次の2つを教育目的として掲げる。

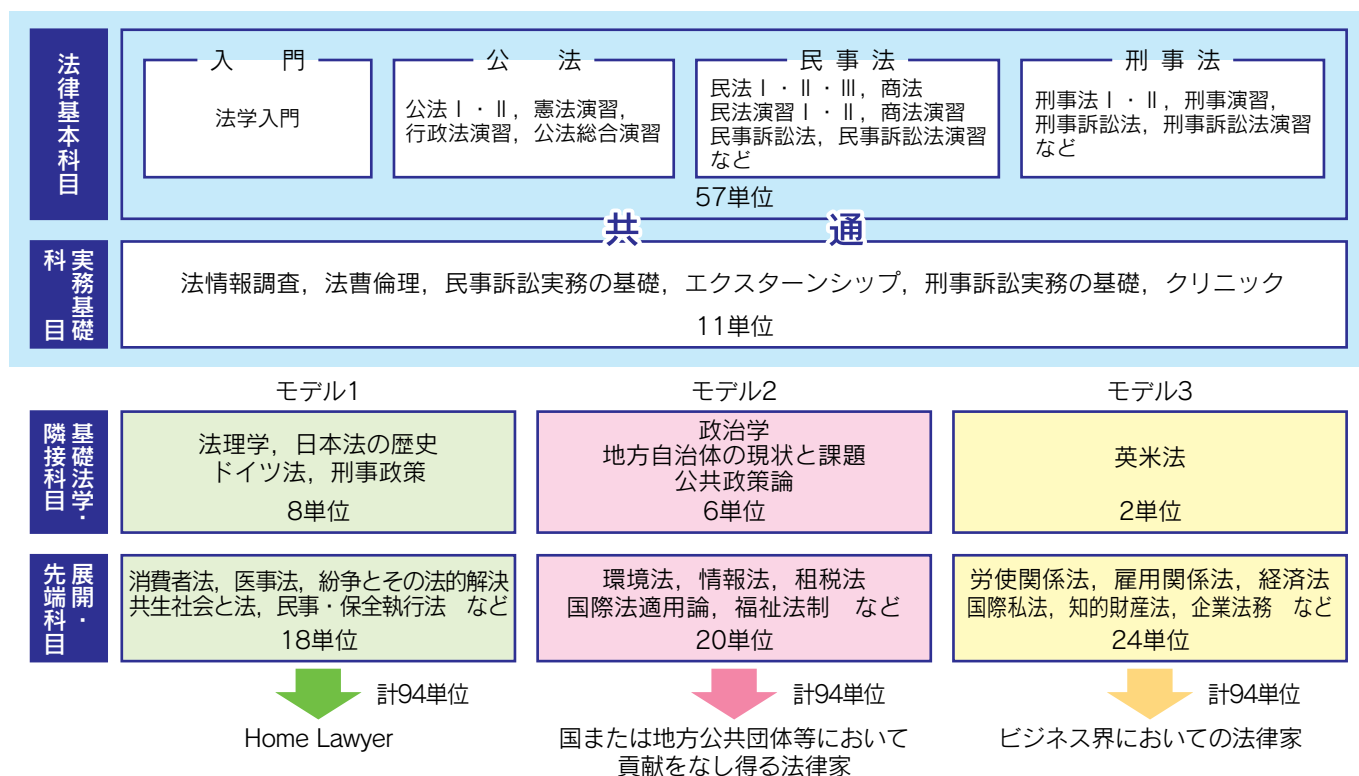
- ① 適切かつ迅速な紛争解決を目指し、事件を分野横断的に捉えることができる法律家の養成
- ② 紛争予防のための調整能力を備えた、社会貢献をなしうる法律家の養成

法務研究科の特色

- ① 法曹として備えるべき資質・能力を育成するため、法理論を中心としつつ実務教育の導入部分も併せて実施し、理論との掛け橋を意識した教育を行う。
- ② 少人数教育（1クラス約20名）や、それぞれ学生ごとに2名の教員チームによる助言体制を整備するなど、充実した教育指導を行う。
- ③ 定員の約3割程度は他学部出身者・社会人を優先的に合格させる。

履修モデル

法務研究科では、目指す法律家像に従い、3つの履修モデルを用意している。



学生募集概要

① 募集人員

標準コース（標準修業年限3年）と短縮コース（同2年）合わせて40名。標準コースを原則とし、標準コース合格者のうち希望者に法律専門科目試験を課して一定の水準に達していると認定した者を短縮コース者とする。

（注）標準コース＝3年以上在学，94単位以上修得
短縮コース＝2年以上在学，65単位以上修得

② 出願期間

平成15年12月15日(月)～12月24日(水)

③ 試験期日

平成16年1月31日(土)	小論文（すべての受験者）
平成16年2月1日(日)	公法，私法，刑法 (いずれも，短縮コースの受験者のみ)
平成16年2月29日(日)	口述試験 (短縮コース筆記試験合格者のみ)



【中島 史雄 法学部長の喜びの声】

このたび、法学部・法学研究科から独立した法科大学院が、2年余りに及ぶ関係各位の並々ならぬ努力の結晶として、呱呱の声あげるに至ったことを、万感の思いを込めながら素直に喜んでおります。と同時に、理論と実務を架橋する法科大学院に課された、司法改革の人的基盤となる北陸地域に根ざした骨太な法曹の養成と、大学改革の起爆剤となるべき教育意識改革の実践の船出に向けて、奮い立つ思いです。

法務研究科の施設

現在の教育学部自然棟の2階から5階を一部改修し、法務研究科の教官室，講義室，図書室，非常勤講師控室などを整備する。

法令関係・凡例情報の検索のほかパソコン持ち込みを可能とする「情報検索室」，模擬裁判を行う「模擬法廷」，司法試験の口述試験対策や各種相談を行う「面接室」も予定されている。



法務研究科が入る予定の教育学部自然棟

世間の注目を集めた法科大学院の設置



法科大学院の設置を報道する新聞と文部科学省から本学に交付された「設置を認める通知書」（右）

金大祭

第40回金大祭「白いキャンバスに」

11月1日から3日にかけて、「白いキャンバスに」を統一テーマに第40回金大祭が角間キャンパスで開かれ、晴天の中約8,000名の市民らが来場した。金大祭本部企画の講演会では、フォトジャーナリストの広河隆一氏が、戦禍の下でのイラク・パレスチナ・アフガニスタンの人々の姿を、スライドを交えて語り、約200名の参加者らは真剣に聴き入った。



「来まつ」パレード=10月26日, 中央公園横



「メロメロアカペラライブ」=11月3日, 大学会館1階



どんぐり工作でトトロ作り



写真の展示や里山の恵みを販売したテント



参加者約50名と里山メイトが角間の里山を歩いた「里山ウォーク」

角間の里山自然学校も金大祭に参加

11月2日と3日の両日、里山メイトが初めて金大祭に参加し、角間の里山を歩く「里山ウォーク」や、模擬店ストリートで写真展示、「コケ玉」や「竹炭」など「里山の恵みのおすそわけ」の販売などを行った。

理学部「ふれてサイエンス」



数学相談コーナー



理学部は11月2日、小・中・高校生、市民らに科学や研究内容にふれてもらう見学会「ふれてサイエンス」を開催した。当日は天候に恵まれ、昨年を大きく上回る約1,400名の参加者があった。

小さな世界を覗いてみようー顕微鏡作りー



超伝導って何だろう？ーリアモーターカーの実験ー



白亜紀に触れようー恐竜折り紙コーナーー

受賞

(敬称略)

秋の叙勲 (本学関係分)



瑞宝中綬章
かたぎり まさゆき
片桐 正之

名誉教授, 元理学部教授



瑞宝単光章
まただ きみこ
前多 公子

元医学部附属病院看護師長

11月3日, 平成15年秋の叙勲が発表され, 本学関係では, 左の2氏が栄えある勲章を受賞した。

北國文化賞



利波病院長

11月3日, 北國新聞会館で「第57回北國文化賞」の贈呈式が行われ, 医学部附属病院の利波紀久病院長が受賞した。

金沢市文化賞

11月3日, 金沢市文化ホールで「金沢市文化賞」の贈呈式が行われ, 経済学部の野村真理教授が受賞した。



野村教授

医学教育等関係業務功労者表彰

11月26日, 学際科学実験センター本多登美夫技術専門職員と医学部附属病院松井武司主任診療放射線技師は, 医学教育等関係業務功労者として文部科学省から表彰された。



本多技術専門職員



松井技師

大学等環境安全協議会技術賞

11月6日, 環境保全センター吉崎佐知子さんは, 大学等環境安全協議会から技術賞を受賞した。



吉崎さん

金沢大学留学生懇談会を開催

11月27日, 金沢大学留学生懇談会が工学部秀峯会館で開催され, 留学生約110名ほか金沢大学国際交流後援会や地域の留学生交流団体をはじめ, 学内外の留学生交流関係者が出席した。



留学生によるタイの踊り



森山もみじ太鼓クラブによる太鼓演奏



佃一成会長 (中央), 堂井吉昭副会長 (左), 北 実常任理事 (右)

金沢大学国際交流後援会との連絡会議

11月27日, 金沢大学国際交流後援会の常任理事会役員と本学関係教職員との連絡会議が開催された。平成15年度の後援会活動状況報告の後, 今後の募集方策等について意見交換が行われた。

学長室から



11月7日、韓国 東亜大学崔賞潤教授（左から2人目）



11月11日、フィンランド ユバスキュラ大学グリーン・ヒューズ講師（右）



11月11日、オーストラリア ニューイングランド大学ジョン・クリーマン博士（左から3人目）

タイ友好親善団が来学

11月10日、タイ友好親善団一行19名が来学し、本学教員及びタイからの留学生と懇談した。

一行はタイ南部のナコーン・シ・タマラート市にあるテムウドオンスクサーパークタイ高校の生徒10名のほか同校長、教諭を中心に構成されており、金沢の寒さに驚きながらも、本学の概要や日本への留学に関する説明に熱心に聞き入っていた。



親善団一行を前にあいさつする畑安次副学長
資料館見学で記念撮影する高校生

外国人留学生

伝統文化に触れる



11月5日、金閣寺を訪れた留学生

11月5日、6日、外国人留学生実地見学旅行が実施され、留学生らは京都市内（京都御所、金閣寺、二条城、竜安寺、三十三間堂、平安神宮、清水寺）で日本の伝統文化に触れた。

防火を学ぶ

国際交流会館に住む外国人留学生を対象に、11月15日、金沢市広坂消防署と共催で防火教室が開かれ、留学生25名が参加した。



はしご車は高い高い（右上）
うわ！地震だ！！＝角間キャンパス駐車場

11月のニュース

ミニ講演「いのちの教育」

- 月 日：11月15日
- 講 師：村井淳志教育学部教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ
- 来場者：25名



喜びの報告に訪れた6年3組のチーム代表と附属学校関係者
=11月7日、学長室

附属小6年3組
ドミノ倒し大会で全国優勝

附属小学校6年3組37名は、NHK総合TV「科学大好き土曜塾」が企画してこの夏に行われた「ドミノカップ2003全国大会」に出場し、全国優勝した。大会は、身近にある物をドミノに使い、課題をクリアしながら倒す速さを競うもので、6年3組のチームは、ビデオテープを2本縦に重ねて並べる工夫などで他の14チームを圧倒した。大会の様子は11月3日、NHK総合で放映された。

附属学校園教育研究発表会
—小学校、中学校、幼稚園で—

11月20日、21日 附属小学校、中学校、幼稚園において、それぞれの研究テーマを掲げた教育研究発表会が開催された。従来、各学校園毎に開催日が異なっていたが、同日に開催することにより各学校園での子供達の成長過程の見学等が可能になった。連日、500名を上回る県内外の教育関係者が出席し、それぞれの立場での教育課程に関する研究討議が行われた。



附属小学校シンポジウム「特色ある学校づくり—今、学校はどこへ歩もうとしているのか?—」=11月21日、附属小学校体育館

福村さんオーストラリア派遣選手に

今年の9月の日本実業団陸上競技大会女子200m競走で、2位に入賞した医学部血液情報統御学教室の福村羊里子さんは、このほど、日本陸上競技連盟から、2004年2~3月にシドニーで行われる日本実業団オーストラリア遠征チームメンバーに推挙された。



秋の静岡国体で石川県代表選手団の旗手をつとめる福村さん（左から3人目）

がん研究所でも防火訓練



消火器を使つての初期消火訓練
=11月18日、がん研究所玄関前

公開講座



進化発生学へようこそ！
講師：山口正晃理学部助教授
=11月22日、金沢大学サテライト・プラザ講義室

角間キャンパスでカヤネズミ発見

秋の草刈り時に、草で編んだ鳥の巣のようなカヤネズミの巣が見つかり、5匹のアカンボウが入っていた。親でも8グラム以下の日本最小のネズミで、里山や湿地の環境変化で極めて少なくなり、近年の石川県内では3カ所しか生息が知られていなかった。理学部3年生の哺乳類研究グループが探したところ、繁殖期が終る11月末までに合計12個の巣を確認した。時々刈り取られる河川敷や休耕田などを好むとされており、角間の草地はその条件に合ったのだろう。カヤネズミが住める「里山」環境の維持を考えたい。



カヤネズミの巣(左)と巣の中のアカンボウ(右)、記事の下はカヤネズミの姿(実物大)



薬剤部で説明を受ける参加者

市民の院内見学ツアー

11月17日、医学部附属病院で「市民の院内見学ツアー」が行われ、市民13名が参加した。参加者は2グループに分かれ、普段入れない検査部、リハビリテーション部、スタッフステーション、薬剤部、厨房などを見学して回り、事故を防ぐための様々な取組みに理解を深めた。

平成15年度金沢大学永年勤続者表彰式



11月20日、「平成15年度永年勤続者表彰式」が挙行され、林学長から金沢大学永年勤続者55名に表彰状が授与、また、

文部科学省永年勤続者5名に表彰状が伝達された。これに対し、文学部梶川勇作教授が代表して謝辞を述べた。

編 集 後 記

今月は、本学の「法科大学院誕生」のうれしいニュースがアカンサスのトップをかざった。6月の申請以来世間の注目を集めていた話題だけに、よい結果をお伝えすることができてホッとしている。

今年のトップニュースを振り返ってみると、経済学部野村教授の学士院賞受賞、工学部のJABEE認定、林学長の再選、理学部広瀬教授のイグ・ノーベル賞受賞、法科大学院誕生と明るいニュースが並ぶ。一方、申請が通らずに記事にできなかった話題もあった。

来年4月には、いよいよ新生「国立大学法人金沢大学」が誕生するが、今年にも増して金沢大学の明るいニュースやがんばっている姿を伝えていきたいと思う。
(総務部企画広報室広報係長 西谷 玲子)

平成15年12月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。